

## 第1回「幾春別川総合開発事業マネジメント委員会」議事概要

開催日時：令和元年12月26日（木） 9：00～10：30

開催場所：札幌開発建設部 会議室

委員：石井 吉春（北海道大学公共政策大学院客員教授）

◎泉 典洋（北海道大学大学院工学研究院教授）

平井 康幸（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所寒地水圏研究グループグループ長）

向田 直範（北海学園大学名誉教授）

山下 弘市（元北海道土木技術会コンクリート研究委員会委員）

◎は委員長（50音順、敬称略）

議事概要：

委員会は委員5名全員の参加により開催し、規約(案)について提案の通り了承され、泉委員が委員長に選出されるとともに、事務局より資料1及び資料2について説明を行い、委員より意見を頂いた。また、今回示した内容以外にコスト縮減に係る提案等があれば、随時事務局に連絡を頂くよう依頼した。

資料1及び資料2：

○ 自然現象、物価上昇等について

- ・フーチングのクラック発生箇所の応力分布を確認した方がよい。またクラック発生箇所と基礎岩盤のゆるみ部が近いことから、関係性の有無を確認した方がよいのではないか。

○ 工期について

- ・近年、気象災害が増えていることもあり、このような公共工事は、早期に効果を発現させることが重要である。

○ コスト縮減について

- ・新制度活用による付替道路の見直しについて、関係機関との協議、調整が必要なものであり、調整の状況を教えて欲しい。
- ・コスト縮減について、想定していた施工条件と実際の施工条件との違いを含めて整理すると理解しやすいのではないか。
- ・監視用カメラ等の管理設備のコスト縮減について、管理移行後の安全性にも配慮して検討を行う必要がある。

○ 全般について

- ・事業のマネジメントについて、事業費、工期、品質のバランスが重要である。
- ・不可避事象が発生していることを踏まえ、こうした不確実性も考慮して事業費を精査した上で、コスト縮減を検討した方がよい。

（以上）